

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 4期連続トップ当選

＜編集発行＞

〒194-0011 町田市

成瀬が丘 1-14-12

サンホワイト E103-13

自宅 042-795-7361(fax 兼用)

市議会議員 吉田つとむ

yoshidaben@gmail.com



清溪セミナー：工藤勇一氏の講演を聴いて

元麹町中学校校長・横浜創英中学・高等学校元校長

工藤勇一氏は、上記の2校で成績アップを図った教育者として有名な人物です。工藤氏は自主性と主体性の相違を唱え、自ら考える力を養うことを求めています。その教育に関する考えでは、学校の運営、教師の児童生徒管理を効率化し、教師を教育に専念することに方針変更をしたのですが、このことが功を奏したのでしょうか。その意味で、工藤氏が打ち出した、宿題廃止、定期テスト廃止、固定担任制廃止などが現場教師にその事務的な負担軽減を図らせることになり、教師が教育に専念することができることになったというものでした。



一般的に、教師の事務量が多いのは教育委員会に提出する書類が多いため、その事務作業が教育の妨げになっていることは他からも指摘されているところです。ただし、町田市ではその負担軽減の対応はできておらず、市の教育委員会はその懸念を全く考えずに運営しているのでしょうか。私は、公立学校と私立学校間には、今後児童生徒の絶対数が減少することで、生徒の激しい取り合いの時代になるという持論を持ちます。町田市は公立小中学校を統合して、この児童生徒の絶対数が減少することに対応する計画を進めていますが、市内や近隣にある私立小中学校がどのような学校経営を図っているかには無関心です。本来は、周辺の私立学校がどのような計画を持っているかを認識した上で町田市の学校配置の対応を図るべきだと考えています。

地域医療セミナーで相田潤東京科学大学大学院教授の講演を聴く

貧困格差による健康障害の増大に繋がる視点

第19回地域医療セミナー（全国自治体病院経営都市議会協議会主催）に出席し、相田潤東京科学大学大学院医歯学総合研究科歯科公衆衛生学分野/ウエルビーイング創成センター教授の講演を聴きました。相田教授は、歯科医の分野で活躍され、標記のポジションを務める傍ら、現場に足を運び、公衆衛生全般を研究しておられる方でした。

特に東日本大震災の被災者対応では、避難所での生活につき歯科衛生の立場から研究をされ、歯磨きができにくい環境では、口腔衛生が保てないことで健康維持の低下が発生していることを具体的に述べられました。私たち政治家とは全く異なる視点、公衆衛生学の学問の問題として人の生活改善、回復を提起されていることに感心しました。その視点から、食事を取れないことでの健康低下、貧困格差による健康障害の増大に繋がる内外の公衆衛生学の実地研究の資料を提示していただきました。大変わかりやすいグラフや数表の添付があり、興味深いものとなっていました。

介護の事業に関して、筋トレ訓練を辞めると高齢者の障害が増大する報告もされ、介護を減少する方法としては、体を動かすことが必須でもなく、ほかの人と会話をするようなサロン参加でも認知症を減らす効果があるという説明もありました。総じて、ソーシャルキャピタルの向上を通じて、人の健康を作っていくことに相田潤教授自身がまい進されている姿にこそ健康問題の具体化が示されていると感じました。



公立病院が参加する市で全国自治体病院経営都市議会協議会

○支持政党なしの方々の代表＝吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎水耕栽培メロン：世界一決定戦を目指し、まずは日本一を決める大会を開催しよう！

町田市議会の無所属会派は、政党に所属しない議員3名で構成し、明快な議論を提起します。

若い世代の育成に全力をささげる 町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表) 吉田つとむ



ブログ



個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第57期生が先行スタート。

取材の私立中学生を町田市バイオエネルギーセンターに案内

中学2年生(海城中高)の訪問取材を受ける

一般ごみを収集した際に、そのゴミの中にリチウムイオン電池が混入し、収集車やゴミ処理施設で火災が発生するニュースがたびたび起きており、町田市バイオエネルギーセンターでも重大な火災が発生し、大掛かりに内部の修繕が行われ、運転再開をしたところでした。

この問題に関して、私立中学校2年生(中高一貫の海城中学高等学校)から町田市議会の面談室でインタビューを受けました。本人の目的は、学校に提出する自由課題のテーマにこの問題を選定し、私がネットに掲載した記事を読んだ上での取材でした。また、私への取材とは別に行政側にもアポイントを自分で取り、双方を別々に取材する計画でした。私は、せっかくインタビューを計画しているならば、「その現場(施設のごみ処理工程と人が分別を手作業で行う現場)を見た方が良いのではないか」と提案し、施設側の協力で実施できました。

議員は行政に質問や質疑をするのが仕事ですが、今回は自分が生徒さんから取材で質問を受け、答える側になりました。質問では、危険なリチウムイオン電池の混入を防ぐにはどうしたらよいかと尋ねられ、市民(住民と外来者)に対して、ゴミの種類による分別内容に啓もう活動を行うことが重要であることを述べました。一方で、大勢の人にこと細かな分別を求めることは無理を生じる原因にもなり、将来的にはゴミの分別を簡略化する方法に切り替えることが必要だという見解を述べました。(次号に続く)

インターン体験記① こが えいと

講義Ⅰ 政治家の資質とその評価について

初回となる今回のインターンでは政治家及び議員の特徴や求められる素質、評価とはどのようなものかについて講義を受けました。



私立高校2年生 こが えいと(第57期生)

特に今般は政治家の公人としての覚悟、信頼に関わることをまとめさせていただきます。先ず政治家の適正について、数名の見識者を例に様々な見解を得ました。政治学者のマックス・ヴェーバー氏は政治家に「情熱」「責任感」「判断力」の3要素を求めた一方、哲学者のカール・ポパー氏は明確な政治家像を問うこと自体を否定した上で危険な統治者の平和的な排除について持論を展開しており、入口を規制する前者と出口を整える後者で考え方、在り方が様々であることを学びました。

そして最も重要なことは、政治家は第三者に判断され、その評価無しには無力な立場であることをよく理解することです。評価を得る手段として街頭演説や広報物を用いるなど様々ある中で、昨今普及が目覚ましいSNSを活用する方が増えています。しかしながらこれは対象を比較的若年層に向けていることを意味し、政治への関心が薄い、選挙権の無い年齢であるなど根強い支持者を得る要素としては弱く、組織票が大きくものをいう選挙活動においてSNSを主軸に置くことは憂慮が必要かと考えます。又、評価を受ける中で有権者はあくまで自身のものさしで立候補者を選択します。人間に厳密性を求めるのは非常に難しいものであり、全ての有権者が正当な判断を下せるとは限りません。不測の事態や不遇なこと、全てに対応できる我慢強さと様々なジレンマを乗り切る一定のしたたかさが政治家として生きる上での必要十分条件なのではないでしょうか。



機械設備がある場所ではヘルメット着用が義務で、中学2年生は白Yシャツ姿

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2025年10月末までに115名が参加しました。

◎57期生として、私立高校2年生の「こが えいと」さんのインターン研修が先行スタートしましたが、今回は政治家や議員はどういうものか、どのような役割を果たし、課題に取り組むかを講義しました。

*次期のインターンシップは、2026年春季第57期の受け入れで照会中です。